

■ バンド全体の音色を左右するキーマン

チューバは吹奏楽では低音を受け持ち、バンド全体のサウンドを支え、変化させることができるキーマンです。

ソロ楽器としても魅力的なので、吹奏楽の楽譜だけでは無く、ソロやメロディをどんどん吹けるように、演奏技術を高めていきましょう！

演奏スキル(演奏技術)はいくつかの能力が関連しています。バランスよく練習をすることで効果的にトレーニングができます。

■ 「自分が何をどうしたいのか」を考え、センスを磨こう

既存の練習方法にとらわれず「自分が何をどうしたいのか」をはっきりさせておけば、自然と上達します。決して先生方や教則本が示した譜例を毎日やれば上手くなるものではありません。

上手くなっていく人の共通点は良い音楽を知っていて(耳が肥えている、音感がある)自分自身を必要以上に批判しない人です。

■ マウスピースでのバズィング

唇の自然な振動が美しい音には不可欠です。バズィング練習でチェックしてみましょう。

・無理矢理に音を出すのではなく「息が勝手に唇を振動させて音になる」感覚を大切にしましょう。

・ピアノやチューナーなどで、音を聴きながら吹くのも良いアイデアです。

・マウスピースでの練習は長時間は必要はありません。

(実際に吹いている感覚や抵抗感などが違うため)

■ ロングトーン

・解放の指使いの良い音色を、バルブを押して息が管を長く通ったとしても、音がつぶれたり、弱くならず、一定に保つことで、演奏と音色の安定を目指します。

・自身の意識で次に移る音をイメージして繋いでいく事が大切です。

・マウスピースを楽器につけると、楽器任せ・運指任せになりやすいのですが、常に心のなかで音を歌いましょう。



※譜例より、さらに低い音に下がっていくのも良いアイデア

■ タンギング+スケール

・時短練習を意識して、タンギングとスケールを一緒に練習してみはいかがでしょうか。

・練習は、息の流れを意識して、舌はリラックスさせたレガートタンギングから練習をしましょう。

・ゆっくりから練習し、色々な調性、アーティキュレーションでも演奏してみましょう。暗譜もできると良いですね。

[譜例：B^b-major(B-dur)]



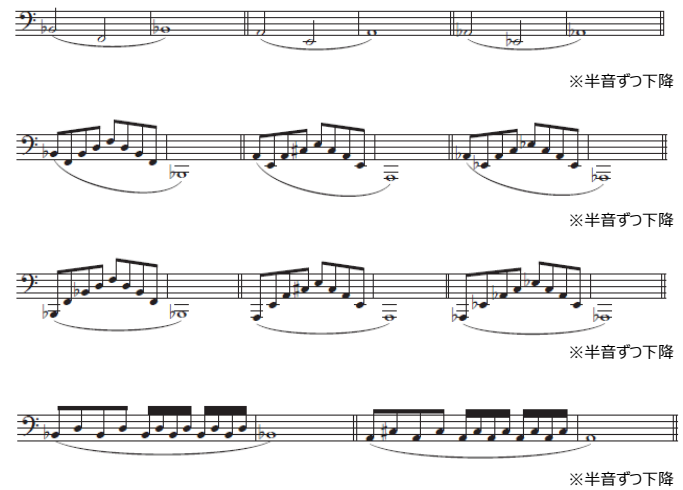
■ リップスラー

・音色の繋がりがスムーズになるようにメトロノームを使いトレーニングしましょう。

・上手にできないときは、マウスピースバズィングで「音を滑らかに移行」するようなイメージを試してみてください。

・低い音のシラブル、高い音のシラブルなども工夫して練習してみましょう。

練習例(JBCバンドスタディより)



※半音ずつ下降

※半音ずつ下降

※半音ずつ下降

※半音ずつ下降